



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

その他

搗精

- 【資料名】 千石とおし
【年代・来歴】 明治23年製
【寸法】 全高128cm、全幅69cm、奥行33cm
【材質】 木製
【保存状態】 概ね良好

【略説明】

搗いた米から糠を取り除く民具。精米装置が未発達な当時は、白米の糠切れが悪かったため、千石通しを用いて糠を選別する必要があった。千石通しは江戸期の貞享元年(1684年)に、万石通しに先んじて江戸で発明されたとされている。千石通しには江戸型と大坂型があるとされ、写真の千石通しは大坂型である。写真の千石通しは精米業を営んでいた家で3代に渡って使用されていたもので、製作年である明治23年(1890年)8月、屋号である塚本屋の銘が記されている。



【注記】

所蔵元である愛知県農業総合試験場(本場)は、収集・寄贈された農具等を展示・保存している「農業啓発館」を併設している。ここでは明治から昭和初期にかけて県内の農家で実際に使用されていた米づくりや養蚕などの農機具のほか、民具、生活用具なども展示しており、無料で見学することができる。

また同試験場で改良・開発された「名古屋コーチン」に関するコーナーもある。

- 【所蔵機関】 愛知県農業総合試験場(本場) 農業啓発館
【住所】 長久手市岩作三ヶ峯1-1
【連絡先電話番号】 0561-62-0085(企画普及部経営情報研究室)
【所蔵先URL】 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nososi/0000061362.html>
【閲覧】 常設展示

開館時間：9時30分～15時30分
休館日：土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料

